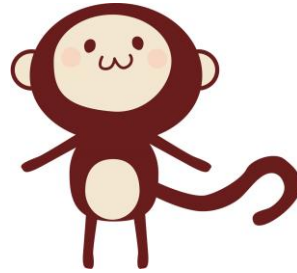


# 図書館だより

No. 9  
平成 28 年 1 月 29 日発行

2016年が始まり、1ヶ月が経とうとしています。遅ればせながら、みなさん、明けましておめでとうございます。今年も図書館をたくさん利用し、たくさんのお本に出会ってください。昨年はお笑いコンビ ピース又吉直樹さんの「火花」が芥川賞を受賞、ベストセラーとなり、話題沸騰となりましたが、今年は何本が注目を浴びるのでしょうか。今月発表された第154回芥川賞の受賞作となった「死んでいない者」の著者 滝口悠生さんは埼玉県入間市出身の作家さんです。地元の作家さんの活躍は嬉しいものです。今後の活躍が楽しみです。



さて、来週はもう2月。3日の節分、14日のバレンタインの他、学校行事では、ひな祭が行われます。ひな祭行事の後には、三送会もありますが、今年は何催しがあるのでしょうか。高校生活も残り少なくなってきましたが、悔いのないよう毎日を大切に過ごしてください。

## これさえあれば前日でも安心\*

### 596-㉔ 『プレゼント前日でも間に合う！手づくりチョコ』 下迫 綾美 || 著 椎出版社

前日に「やっぱり手づくりチョコを作りたい！！」と思いついてしまっても、この本さえあれば焦らずお菓子づくりに挑めます。簡単に作れるのに手が凝っているように見えるチョコレート菓子のレシピを豊富に紹介。調理時間と難易度も載っているので、そこから自分に合ったレシピを選ぶこともできるのが便利です。

味だけでなく、見た目も可愛らしく仕上げたいという人にも可愛いデコレーションの方法やマスキングテープ、リボンなどを使ったおしゃれなラッピング術が色々載っているので、おすすめです。じっくりレシピを眺めて、「これだ！」というものを見つけ、プレゼントした相手に喜ばれる手づくりチョコを完成させましょう。

## 高校生活の思い出\*

### 911.1-カ 『放課後』 加藤 千恵 || 短歌 タクマクニヒロ || 写真 雷鳥社

五・七・五・七・七の三十一字の中に、学校生活の一コマコマが映し出されています。そこにぴったりとくる写真が添えられていて、読んでみると、自分が送ってきた学校生活の様々なシーンやその時に感じていた気持ちを思い出し、胸がいっぱいになります。卒業を間近に控えた時に読むと、溢れる思いが止まらなくなりそうです。読み終わった後は、たくさんの思い出を振り返りながら、校舎をじっくりと歩きたくなるはず。また、卒業して何年か経った後に読んでも当時を思い出し、懐かしく、温かな気持ちが心に広がることでしょう。

## 図書館の開館時間が変わりました

月曜	11:00~19:00
火曜~金曜	9:00~19:00
土曜	9:15~17:15
考査1週間前	9:00~17:15
考査中	9:00~17:00

と変更しました。

※記念館の開館、閉館も同様に変更となります。

以上のとおり、図書館の開館時間が変更となりました。この変更に伴い、記念館の開館と閉館の時間も同様に変更となりました。時間を確認の上、利用してください。

## 読書会 & おはなし会のお誘い

2月は図書館でもイベントが目白押し。読書会とおはなし会を開催します！3年生にとってはこれが参加できる最後の図書館イベントになるかと思っておりますので、「そういえば、一度も参加したことがなかったな」という人は高校生活の思い出のひとつとして参加しに来てください。読書会は大学や社会人グループでも行っているの、今回をきっかけに読書会のおもしろさを知って、これからは繋げてみてもらえると嬉しいです。また、今年度最後のおはなし会にもぜひ足を運んでください。聞いて楽しい作品をたくさん用意して待っています。



### 読書会

2月4日(木) 16:10~ 図書館 今回語り合う本は…『不思議の国のアリス』です。

### おはなし会

2月25日(木) 16:10~ 図書館



## メッセージカードを作ろう

図書館では、現在、メッセージカード制作コーナーを開設しています。バレンタインのチョコレートや友だちに贈るプレゼントに添えるメッセージカードを楽しく作ってみませんか。

メッセージカード作りに必要な道具は図書館で揃えてありますので、手ぶらで気軽に参加してください。マスキングテープやペーパーチップスなど色々な素材を使って、とっておきのメッセージカードを作ってみましょう。作品例が載った本も用意してありますので、「作ってみたいけど、デザインのアイデアが浮かばない」という人は本を参考にしてみてください。



## ❄️ 今月の知っておきたい〇〇の世界 ❄️

今月の知っておきたい〇〇の世界、第8回目の今回は華々しい活躍ぶりの男子フィギュアスケート羽生結弦選手に日本、そして、世界が湧いていることもあるので“ウィンタースポーツの世界”を紹介します。

ウィンタースポーツとひとことで言っても、様々な競技がありますが、みなさんはスケートやスキー、スノーボードなど、何かウィンタースポーツをやっていますか。もしくは、自分ではやらないけれど、観戦するのが好き、応援している選手がいるというものがありますか。あると言う人も、ないと言う人もこの機会にウィンタースポーツの魅力、選手の魅力を知ってみてください。次の冬季オリンピックは2年後の2018年 韓国の平昌(ピョンチャン)で行われます。その時には、様々な競技に注目して、熱い応援をしていきたいですね。



### フィギュアスケート\*

784-ハ 『羽生結弦』 羽生 結弦 || 著 ぴあ

異次元と言われた 300 点越えの 322.4 点を NHK 杯で実現し、さらにスペインで 330.43 点という驚異の点数を出した羽生。今シーズンのフリープログラムには「SEIMEI」というタイトルが彼自身によって命名されています。それは安倍晴明であり、また清明や生命・盛名・声明などいろいろな思いが込められているそうです。自分にしか表現できないプログラムを追求し、たどり着いた“和”の世界「SEIMEI」が、世界を魅了しました。自らに「絶対王者だぞ」とプレッシャーをかけ、より高みを目指す羽生選手。いつも被災地のことを心にかけ、自分に何ができるのかを問いかけている彼の言葉から、ぜひその感謝を忘れない素敵な心と真剣にスケートと向きあう覚悟とを読み取ってください。

### スキージャンプ\*

784-カ 『不屈の翼 がかせ 葛西紀明のジャンプ人生』 岡崎 敏 || 著 日刊スポーツ出版社

2014年のソチ・オリンピック スキー・ジャンプ個人ラージヒルで41歳にして銀メダル獲得という偉業を成し遂げた葛西紀明選手。小学3年生の時に友だちとこっそり飛んだジャンプ台でスキー・ジャンプの面白さに魅せられ、葛西選手のジャンプ人生は始まりました。持って生まれた抜群のセンスに加え、人一倍の努力を常に怠らないその姿勢からは私たちがたくさんを学ばせてもらいます。輝かしい活躍の裏には、乗り越えなければいけない苦境の数々があり、「もうジャンプの事も考えたくない」と感じるまでに至ることもあったそうです。それでも強い心で苦境を乗り越えてきた葛西選手のスキー・ジャンプに賭ける思いに読んでいて何度も心を打たれます。“レジェンド”と呼ばれる葛西選手の“すごさ”をこの本で改めて感じてほしいです。

### カーリング\*

784-オ 『新 みんなのカーリング』 小川 豊和 || 監修 学研教育出版

2006年のトリノオリンピックでの「チーム青森」(日本女子代表)の活躍で知名度が一気に高くなったカーリング。競技の様子はテレビできっとみなさん見たことがあると思いますが、さて、カーリングのルールって知っていますか。ルールはよくわからないけど、何となくで見ているという人も実は多いのではないのでしょうか。この本では、カーリングの得点のつき方、競技の進行、ストーンの握り方と投げ方、氷の表面をはくスイーピングの仕方などカーリングの基本的なことを学ぶことができます。試合を見ていて用語がわからない時に役立つ用語一覧もあります。また、「実際にやってみることはできるかな」と思っている人のために、カーリング体験のできるスクールの紹介やチームの作り方、試合の進め方なども掲載されています。

## 🚦 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 🚦

山内マリコさんの『東京23話』(913.6-ヤ ポプラ社)を読みました。

この本では東京23区が擬人化されています。そして、それぞれが自らの区を語っています。渋谷は「みんな元気い〜?」と、文京区は「吾輩は区である」と、世田谷区は「ごきげんよう」と、どの区も個性豊かな挨拶から始まり、自身(区)について語ってくれます。それを聞いて(読んで)いると、「へえー、この区にはこんな歴史があつて、こんな人が暮らしていたのか!」と興味湧き、楽しくなってきます。特に今に至るまでの歴史はこの本を読まなかったら知らないままだった! というものが多くあり、この本のおかげでずいぶん23区に詳しくなることができました。私は羽田空港のある大田区の語る歴史にちょっと切なくなったり、荒川区の荒川話に驚いたりしましたが、みなさんはどの区の話に心が動くでしょうか。これからは都内に出かける時には、この本の事を思い出して街を歩きたいです。 【今井】



『新しい道徳』 北野武 || 著 (150-キ 幻冬舎)を読みました。

騙されないでください。この本のタイトルにはさらに『「いいことをすると気持ちがいい」のはなぜか』というサブタイトルもついていますが、決して道徳読本に書かれているような内容ではありません!! だって、北野武ですから。ツービート時代のギャグに「赤信号、みんなで渡れば怖くない」があつたのを皆さんは知っていますか。人間の心理の奥を知り、笑えるけど笑えない真実を含んだ視点をつくのが北野武です。その彼が、道徳の話はなんだかおかしいなあと思うからただ書いてただけ、というこの本は、“今”というタイミングで世に出されたことにも意味があるように感じられました。彼は本書のはじめに「他人の書いたことを鵜呑みにする性癖のある人は、この本を読んではいけません」と警告しています。そしてその後「この本の結論は、道徳がどうのこうのという人間は、信用しちゃいけない」ともいっています。どれだけ彼を疑ってかかれればよいのでしょうか。そしておわりには「あとは自分で考えてほしい」と読者を前方に押し出します。決して、この本で立ち止まらず、読者自身で考えることを要求する、新しい時代の道徳の本でした。【鈴木】